

# 「太平山麓九条の会」だより



事務局：須黒法律会計事務所 〒328-0027 栃木市今泉町 2-4-18 FAX0282-22-3757

電話連絡先 0282-22-7079(増田)

Eメール [oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp](mailto:oohirasanroku9jo@yahoo.co.jp)

HP：太平山麓九条の会で検索

186号

2022年12月23日発行



## ストップ！ 軍拡・敵基地攻撃能力保有！



### このまま進めば＝待っているのは憲法改悪・戦争への道！！

恐怖心は人間から理性や賢明な判断を失わせるのでしょうか？ロシアのウクライナ侵攻をきっかけに、多くの人が軍拡賛成に転換しているように思われて、恐ろしさを感じています。マスコミの報道も大きく作用しているかもしれませんが、軍事には軍事で対抗することが、平和を守れる道だという主張が大手を振っています。しかし、本当にそうでしょうか？軍備を増強すれば、その対象国と思われる国は、委縮するどころか今以上に軍備を増強し、軍拡競争はエスカレートし緊張は高まるはずです。

このまま突っ走ると、行きつく先は、憲法、特に9条改悪の道につながってしまいます。9条については、まだ多くの方が守りたいと思っています。しかし、国会での審議もなく、閣議決定で決めてしまった「敵基地攻撃能力や軍事費増強」が実践されると、憲法が改悪されたのと同じことになってしまいます。そうさせないためにも、「敵基地攻撃能力や軍事費増強」に反対の声を上げていきましょう。そして同時に「憲法を守れ！」「解釈改憲をするな！」の世論を大きくしていきましょう。

76年もの間、日本が戦争をするのも、戦争に巻き込まれることから守ってくれたのは、憲法9条です。憲法9条があるから、世界の国々も日本を尊重してくれていたのです。それを投げ捨てていいのでしょうか？今の日本の状況は9条が築いてきた「不戦の誓い」を裏切るような行動が続いています。いまこそ現憲法の基本に戻る必要があると思います。「私たちは武器は持たないし、戦争もしません」と世界に誓った憲法・9条を守り、「外交で平和を」の声を大きく挙げていきましょう。

(I・T記)

### 9の日行動栃木市役所前スタンディング(12月9日) こぼれ話

下校途中の小学生3人が、何しているのかな？と、不思議そうな顔をして傍に寄って来た。「うん、これね～。君たちが大人になった時も、いまのようにいっぱい学べて、ご飯もしっかり食べられるような平和が続くよう、戦争はダメ！と、おじいちゃん、おばあちゃんが立って声を出しているの」

首をかしげて「う～ん！？ 戦争ってさ、殺すことなの？」「あの子、アメリカと日本は友達でしょ。アメリカはイラクをやっつけたでしょ。」

しっかりした口調の発言にびっくりして、6年生なの？と聞いたら「6年生はもっと大きいでしょ。3年生だよ」びっくり！3年生なの？

「アメリカの人たちと仲良くするのはいいことだけど、武器をもって一緒に戦争するようになるのは絶対だめだよ！」「君たちが大きくなって、この腕に銃は持ってほしくないの」「あの子、核兵器を使ったら地球はどうなる？」「どうなると思うかな？」「核兵器使ったらみんな死んじゃうよ

ね！」と答える友達。さらに、「じゃ！使ったら自殺だね」「あの子、昔、日本は原爆を落とされたでしょ。」

「そうだね！日本は戦争で広島と長崎に原爆を落とされたよ」「長崎は山奥に？」「いや！皆が住んでいるところに落とされたの。原爆によって、今も苦しんでいる人がたくさんいるの。だから、核兵器はなくそうと声を出しているの」「あの子、おばちゃん『ちーちゃんのかげおくり』って知ってる？」「うん！読んだことあるよ。」「うん、学校の教科書にのってる！！戦争のことだよ、悲しい話だよ」「そう！教科書に載っているの？」

まだまだ会話が続きましたが、別れ際に、「教えてもらってありがとうございました」とお礼を言われてしまいましたが、とてもかこい子たちだな～と感激。私自身が学ばされた、思ったスタンディングの日になりました。

(大森八重子記)



# 野口 <sup>みさお</sup>徳さんは語る！

## 「二度とこんな体験をする戦争を起こさせない！ そんな声を多くの人とあげていこう！！」



12月15日(土)13時30分から、15時まで、約40名の参加者を迎えて、野口徳さんの「戦争体験を聞く会」が開催されました。野口さんは記憶をたどるように、幼少期にどんな軍国教育が行われたか、満州に渡ってからの生活や受けた教育について、また終戦後の満州に残された日本人たちの生活の様子、引き揚げ船の状況などを具体的に詳しく語ってくれました。満州の地で行われた暴力や慰安婦のこと、病院船と一般船の二手にわたって帰国した引き揚げ船での待遇(病気のお姉さんがいたため)などを、素朴な口調で語ってくれるので、まるでその場にいたかのように当時の様子を想像することが出来ました。

話を通して野口さんが強調していたのは、もう二度とこのような体験をする国にはならないという強い決意と意思でした。そんな思いを私たちはどう受け継ぎ生かしていくかが問われていると思いました。



### (感想から)

○引揚帰国するときの状況。子どもとお饅頭30個と交換、船を決める顔色選別、食の困窮、妹さん、お姉さん、お母様を亡くされたこと、計り知れない経験をされて今語ってくださった野口さんに深く感謝いたします。たくさん犠牲の中に今の世の中があることを強く意識しました。

○戦争への道は大分前から準備されるものですね。

○今、軍拡増強に賛成の人が半数以上になっています。憲法もないに等しい状況です。まるで戦争前夜に近づいているような。野口さんの体験したようなことが一人ひとりに降りかかってくるということを想像できないのでしょうか？自分に重ね合わせて考えてみるのが大切だと思います。

○人の命が木くずのように粗末に消耗される様子を淡々と語られた。お元気な話しぶりに野口さんがとんでもない体験を乗り越えてよくぞ生きてきたと感嘆しました。今なお戦場が現在進行中。またそんな時代に向かっているようで不安でたまらない。どうやってブレーキがかけられるのかと焦ります。

○私は戦後21年生まれ、母が私を負い、7月に佐世保に引き揚げてきたものです。野口さんの体験を聞きまして今の自分の置かれていることを感謝しながらお聞きました。二度と戦争を起こさないという思い、大切だなと思いました。この話をこられなかった方にもお伝えしたいと思います。

### 反戦・平和な世界へ

私の父は、大正六年生まれ。73歳で他界しました。戦争で招集され宇都宮連隊に所属、一度関東軍で満州に派遣されましたが、南方派遣と父の同級生九人がともに輸送船で、運ばれ、南方の激戦地(ニューギニア)などに連れて行かれました。ここについたときは、制空権は米軍であり、激しい空爆と艦砲射撃二万を越す日本軍は、逃げまどい逃避行に入っていました。90%を超える戦死者を出し、玉砕戦地と言われている。しかし大宮村の九人、誰一人戦死せず無事帰還したことは、大宮村の誇りだったようです。(蛇年生まれ)父は、炊事兵の伍長だったようで、多くの兵が餓死した中で、どう命をとどめたのでしょうか。

現地での悲惨だった事や、惨い事、辛かった事は一言も口にしませんでした。もっと詳しく聞いておけば良かったと悔やまれてなりません。調理師の免許を持っていた父は、幸運だったので。苦労話は一切せず、パパイヤ、マンゴウが美味かったなどの話は、よく聞きましたが、話すことが出来ないほどの苦しみ、悲惨な現状だったのでしょうか。

母と結婚してからも、マラリアで高熱を出し、その度に心配が絶えなかったそうです。

今、戦争か平和かの岐路に立たされています。政府は、大軍拡をもくろみ、如何に国民から財源をむしり取るかを目論んでいます。「改憲阻止、九条守れ！」の声を大きく広げて行きましょ



◆◇スタンディング 1月9日(月):市役所前 1月19日(木) とちぎコープ前 両日とも15時から  
◇◆スタッフ会議 1月12日(木)・1月27日(金) 13時30分～ 2月9日(木)12時～ くらら(とちぎ楽習館2階)